

はじめに



東京都は、「東京都平和の日条例」で、3月10日を「東京都平和の日」と定め、平和の意義を確認するとともに、平和意識の高揚を図るため、記念行事を実施しております。

令和2年度は、令和3年3月10日、東京都庁において「第31回東京都平和の日記念式典」を開催いたしました。

記念式典の冒頭に東京大空襲をはじめ戦災で亡くなられた方々を追悼し、世界の恒久平和を願って黙とうを行い、厳粛な雰囲気の中で式典が執り行われました。

また、記念行事の一環として、東京芸術劇場、アキシマエンス(昭島市教育福祉総合センター)、日野市の多摩平の森ふれあい館において、「東京空襲資料展」を開催いたしました。

本報告書は、今回の東京都平和の日記念行事についてまとめたものです。

本書が平和の大切さを確認していただくための一助となれば幸いです。


結びになりますが、今回の東京都平和の日記念行事の実施にあたり、御協力をいただいた皆様に心から御礼を申し上げます。

令和3年3月


東京都

目次

はじめに	1
第一章／記念式典	3
概要	4
主催者挨拶	6
東京都知事 小池 百合子	6
東京都議会議長 石川 良一	7
来賓挨拶	8
在日外交団代表	8
駐日エリトリア国特命全権大使 エステファノス・アフオワキ・ハイレ閣下	
東京空襲被災者代表 高橋 雅雄様	10
式典風景	11
第二章／普及啓発	15
告知	16
第三章／関連事業	19
東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑	20
「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑」花壇デザイン画募集	21
東京空襲資料展	26
東京空襲資料展 チラシ	28
東京空襲資料展 展示品一覧	30
東京空襲写真パネル展示	35
第四章／資料	37
アンケート用紙	38
アンケート集計結果	39
東京都平和の日条例	41
東京都民平和アピール	42



第一章
記念式典





概要

第31回東京都平和の日記念式典

日時	令和3年3月10日(水) 午後2時～午後2時30分	
場所	東京都庁第一本庁舎 5階 大会議場	
プログラム	午後1時00分	開場・受付
	午後2時00分	記念式典

式次第

* 黙とう

* 国歌奏楽

* 主催者挨拶

東京都知事
東京都議会議長

小池 百合子
石川 良一

* 来賓挨拶

在日外交団代表
東京空襲被災者代表

駐日エリトリア国特命全権大使
エスティファノス・アフワキ・ハイレ閣下
高橋 雅雄様

Memorial Ceremony Program



The 31st Tokyo Metropolitan Peace Day Memorial Ceremony

■ **Date and time** Wednesday, March 10, 2021 2:00PM - 2:30PM

■ **Venue** Tokyo Metropolitan Government Building No.1
5th Floor, Main Conference Hall

■ **Program** 1:00PM Open
2:00PM Memorial Ceremony

Memorial Ceremony

Silent Prayer

National Anthem of Japan

Greetings from the Organizers

Governor of Tokyo

Koike Yuriko

President of the Tokyo Metropolitan Assembly

Ishikawa Ryoichi

Messages from the Distinguished Guests

Representative for Diplomatic Corps in Japan

Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the State of Eritrea

H.E. Mr. Estifanos Afeworki Haile

Representative of the Tokyo Air Raid Victims **Mr. Takahashi Masao**

主催者挨拶



東京都知事

小池 百合子

本日ここに、御遺族の皆様、御来賓の皆様をお迎えして、「第31回東京都平和の日記念式典」を執り行うに当たり、ご挨拶を申し上げます。

東京は、先の大戦で、度重なる空襲により甚大な被害を受けました。中でも、昭和20年3月10日の下町地区を中心に襲った大空襲では、一夜にして10万人ともいわれる尊い命が奪われました。

焦土と化した下町一帯の悲惨な光景と、家族や友人を失った深い悲しみは、今なお、被災した方々の心の中に、大変重く深く刻み込まれています。

犠牲となられた方々の御無念と御遺族のお気持ちに思いを致しますと、痛惜の念を禁じ得ません。

東京都民を代表し、尊い命を奪われた御霊に謹んで哀悼の誠を捧げ、御遺族の皆様にご心から追悼の意を表します。

私たちが今享受している平和と繁栄は、多くの尊い犠牲と先人たちの懸命の努力の上に築かれたものです。戦争を知らない世代が大半を占めるようになった今、戦争の記憶を風化させることなく、次の世代に語り継ぎ、平和の大切さを伝えていかなければなりません。

東京都では、平和の意義を確認し、戦争の惨禍を再び繰り返さないことを誓い、3月10日を「東京都平和の日」と定め、記念行事を実施しております。

都立横網町公園内には、祈念碑を建設し、その内部には東京空襲で犠牲になった方々のお名前を記録した「東京空襲犠牲者名簿」を納めております。

本年は、新たに22名の方々のお名前を追加し、合計81,295名の方々が登載されております。

世界は今なお、地域紛争やテロ行為が絶えず、飢餓や貧困もまた人々を苦しめています。戦争の惨禍を経験した東京は、世界の都市と手を携え、世界平和に貢献していかなければなりません。

また、私たちは昨年来、新型コロナウイルスとの闘いを続けています。都民の命を守るため、引き続き感染症対策に全力を挙げて取り組んでまいります。

そして、今夏の東京2020大会を、平和の祭典として成功させるとともに、希望にあふれた平和国家日本の首都として、東京をさらに発展させていくことをお誓い申し上げます。

結びに、犠牲となられた方々の御冥福と御遺族の皆様のご御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げ、私の挨拶といたします。

主催者挨拶



東京都議会議長
石川 良一

本日ここに、ご遺族、ご来賓の皆様をお迎えして、第31回「東京都 平和の日」記念式典を執り行うに当たり、東京都議会を代表して、ご挨拶を申し上げます。

幾多の悲しみをもたらした先の大戦が終わり、早や76年の歳月が過ぎ去ろうとしています。
戦禍の中、多くの尊い命が失われましたことは、私たちにとって、永遠に忘れることのできない深い悲しみであります。

東京の街は、昭和17年4月18日以来、爆撃機による空襲を幾度となく受け、壊滅的な被害が生じました。
とりわけ、昭和20年3月10日の大空襲では、下町を中心とした地域が一夜にして焦土と化し、多くの都民が犠牲となりました。

最愛の肉親を失われたご遺族のご心中を拝察しますと、万感胸に迫り、哀惜の念を禁じ得ません。

今日、私たちが当然のように享受する平和と繁栄は、戦災で命を落とされた方々の尊い犠牲と、ご遺族の皆様方のご労苦の上に築かれたものであります。

いかに時代が移り変わろうとも、私たちは、このことを一時たりとも忘れてはなりません。

そして、私たちは、歴史を教訓とし、戦争の悲惨さや愚かさを後世に語り継ぐとともに、強い意思を持って平和な社会の実現に邁進していかなければなりません。

世界は今、新型コロナウイルス感染症との闘いの只中にあります。

世界が直面する、この未曾有の難局を乗り越えるためには、人類の英知を結集し、国際的な連携や協力を今まで以上に深めていくことが何よりも大切です。

そして、今年の夏に開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会を、世界中の人たちが力を合わせてコロナに打ち勝った大会として成功へ導いていかなければなりません。

東京都議会といたしましても、世界中の人々が平和に暮らせる社会を作り上げていくことが、犠牲となられた方々に対する私たちの責務であることを深く胸に刻み、今後とも世界の恒久平和の実現に一層の努力を傾注してまいります。

結びに、戦災で犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、ご列席の皆様のご健勝・ご多幸を心から祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶



在日外交団代表

駐日エリトリア国特命全権大使

エスティファノス・アフォワキ・ハイレ閣下

小池百合子都知事
東京都議会 石川良一議長
東京空襲被災者代表 高橋雅雄様
市区町村長

並びに御来賓、ご列席の皆さま：

本日私たちは、10万人以上の犠牲を出し、100万人以上が家を失うこととなった、第二次世界大戦での東京大空襲の犠牲者を悼むためにここに集まりました。これは、人類史の中で最も悲しい出来事の一つです。この悲しい経験と失われた命を振り返り、私たちはこの歴史的な東京都平和の日に、喪に服するだけでなく、平和と相互理解を願うためにここにいます。

そのため、この機会をお借りし、駐日エリトリア大使として、そして在京外交団を代表して、第二次世界大戦時の日本人、特に東京の人々の犠牲とその苦しみに対して、改めて心から哀悼の意を表したいと思います。

今は過去のどの時よりも、地域的、国際的な利害が対立を巻き起こし、地球のいくつかの地域で何百万人もの罪のない人々が東京と同様に戦争の焼夷弾で犠牲になっていますが、こうした時こそ、私たちは警戒し、1945年に東京の人々に起こったことを思い出し、追憶すべきです。

現在、地政学的な価値観を中心とした新世界秩序に対して賛否両論がありますが、前世紀の戦争と超大国の対立の経験を考えると、これらの議論はヒューマニズムと人間中心の価値観に根ざしたものであることが不可欠です。そうでなければ、国連や他の国際機関による、共同の繁栄、安全保障、政治、経済、科学、技術、文化、人道的な領域における協力を確かにするための平和と安定の維持も、世界的な夢のままで終わってしまいます。COVID-19のパンデミックは、ウェストファリア条約以後に習得し大切にすることに固執してきた国家よりも、なにより私たちは一つの惑星におり一つの民族なのだということを、厳しく思い出させてくれます。

私たちの運命は一つであり同じです。エリトリア、エチオピア、ソマリア、スーダン、南スーダン、そしてそれだけにとどまらず(広域的に)平和と協力を支持することは、東京の平和を支持することでもあります。

日本は、第二次世界大戦の灰燼から立ち上がった後、今日では世界の国々の中でも平和で存在感のある国となっています。したがって、2018年のエリトリア - エチオピア平和協定に対する日本の継続的な支援は本当に価値のあるものです。地球上の男性、女性、子供たちの尊い命は、平和に生きなければなりません。法、秩序、平和でもって、相違を治めていかなければなりません。

今回はお招きいただき誠にありがとうございました。今後も私たちの地域の平和構築に向けた日本の継続的な支援を期待しています。

また、COVID-19に打ち勝つために絶え間なく戦っている小池都知事のリーダーシップに心から感謝を申し上げます。この戦いに必ず勝ると私たちは皆信じています。

ご清聴ありがとうございました。

Messages from the Distinguished Guests



On behalf of Diplomatic Corps in Tokyo
Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of the State of Eritrea
H.E. Mr. ESTIFANOS Afeworki Haile

Her Excellency, Ms. Yuriko Koike, Governor of Tokyo
Honorable Ryoichi Ishikawa, President of Tokyo Metropolitan Assembly
Mr. Masao Takahashi, Representative of Tokyo Air Raid victims
Mayors of cities and municipalities

Excellencies and distinguished guests
Ladies and Gentlemen:

Today we are all gathered here to mourn the victims of the bombings of Tokyo in World War II which killed more than a hundred thousand residents and left more than a million of them homeless. This is one of the saddest episodes in human history. Based on this sad experience and loss of human life, we are here on this historic Tokyo Peace Day, not only to mourn but also to plead for peace and mutual understanding.

Therefore, seizing this opportunity, in my capacity as Ambassador of the State of Eritrea to Japan and on behalf of the Diplomatic Corps here in Tokyo, allow me to express, once again, our deepfelt sorrow on the loss and suffering of the people of Japan especially the city of Tokyo in World War II.

It is now, more than any time in the past, when regional, international interests are spinning conflicts, when wars are smoldering millions of innocent victims in some parts of the planet with the same fire-bombs, that we should stay vigilant, remember, and stay reminiscent of what happened to the residents of Tokyo in 1945.

Currently, there are debates and formulas for and against a new world order which is geopolitical centric in its values but given, the last century experiences of wars and superpower rivalries, it is imperative that these debates get anchored in humanism and people-centered values, without which the United Nations and other international organizations' maintenance of peace and stability to ensure common prosperity, cooperation in security, political, economic, scientific, technological, cultural and humane spheres remains only a dream to flourish globally. COVID-19 pandemic is a harsh reminder to all of us that we are - one planet and one people one more time - than the nationalities we have been fixated to learn and cherish after Westphalia.

Our destiny is one and the same. Standing for peace and cooperation between Eritrea, Ethiopia, Somalia, Sudan, South Sudan, and beyond is also standing for peace in Tokyo.

Japan stands tall and in peace among the family of nations in the world today after rising up from the ashes of World War II. Hence, Japan's continued support to the 2018 Eritrea Ethiopia Peace Treaty is indeed valuable. Precious life of men, women, and children on our planet must live in peace. Law, order, and peace must reign over our differences.

Thank you very much for your cordial invitation, and we look forward to the continued support by Japan to peacebuilding in our region.

Our deep appreciation also goes to Governor Koike for her leadership in the ongoing relentless fight to defeat COVID-19. We are all confident that you will win this battle.

Thank you,

来賓挨拶



東京空襲被災者代表
高橋 雅雄様

私は昭和5年生まれ、住所は港区白金台。東京大空襲で焼け出されたのは、現住地から北東方向350米^{メートル}の地点です。そこは北斜面地の高台で見晴らしはよく、北里研究所とその病院、私の母校である神応小学校（現在は廃校）が見下ろせます。また右手は聖心女子学院の樹林地が広がり、延々と赤煉瓦塀の坂道は昔と変わっていません。

さて、昭和20年3月10日の夜、空襲警報発令のラジオ放送に人々の緊張は高まりました。防空頭巾を始め身なりを整え待機していると、「敵の爆撃機の編隊が〇〇地方から関東地方へ向け飛行中」と伝える放送に人々の緊張は刻々と高まります。何故か夜にしては空は明るかったのを覚えています。やがて大型機とわかる爆音が近づいてきて、敵のB29の巨体が現われました。超低空で重低音を響かせて迫ります。機体に書かれた文字ばかりか搭乗員の姿まで見たような気がしたのは錯覚でしょうか。間もなくすると、シュルシュルという音に続いてあちこちから火の手があがり、北風に乗って焦げ臭い匂いが鼻をつきます。北風の温度も高くなり息苦しい。気がつくと、家の近くの地面のあちこちにゆらゆら地を這う炎が見えました。本能的に父の商売道具のシャベルで地面を叩いて消し廻りました。一ヶ所を消すと他の所に炎が出ている状態で、きりのないことでした。その頃、母校神応小学校の木造校舎にも火が入り、悲しさがこみあげました。焼夷弾が木造建築には爆弾より効果的であることに気づきました。北風に乗って熱風は烈しさを増し、限界を感じてその場から現在の東大医科学研究所内で身を休めました。夜も明け、空襲警報も解除となり、我が家の様子を見に行くと、眼下に広がる北斜面は火災の後の煙がくすぶり無残な光景が広がっています。当然ながら我が家も全て焼き^{つく}盡されていました。不思議と涙は出ず、ただ敵憎しの感情だけが湧き出していました。

東京空襲は、終戦までの間に延百十数回に及んだ記録があります。その間、都立八中二年生の私たちは学徒動員で数ヶ所の工場へ分かれて派遣されました。私は、日満工業という鉄工所へ派遣され、旋盤という金属加工機を担当させられました。不良作品続出で申し訳なさりと不甲斐無さでくやしかったです。日満工業の次に、多摩川近くの日本理化という工場に配属となり雑多な仕事につきましたが、何回かの機銃掃射に見舞われました。グラマン戦闘機です。間もなく8月15日を迎え、広場に集められた私たちは異様な雰囲気にも包まれました。天皇陛下のお言葉があることを知らされ、ラジオからの音に耳を傾けました。音質と音量のせいではっきりと聞き取れませんが、どうやら戦争に負けたことがわかり愕然としました。以来今日まで平和の中で長いこと、二度とない人生を生きながらえた幸せをかみしめています。

式典風景



会場全景



黙とう

式典風景



東京都知事挨拶



東京都議会議長挨拶



在日外交団代表挨拶



東京空襲被災者代表挨拶



登壇者(主催者)



登壇者(来賓)

式典等風景



バス受付風景 (横網町公園)



バス乗車風景 (横網町公園)



式典受付風景



式典受付風景



会場風景 (ロビー)



会場風景

